

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

ATMサービス基盤 リモート運用サービス

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



環境貢献ソリューション

ATMサービス基盤 リモート運用サービス

ATMサービス基盤 リモート運用サービスは、ATMの各種情報を分析し異常兆候などを検知し、遠隔からのリモート保守支援サービスを提供するソリューションです。遠隔監視による保守項目の改善などにより柔軟な保守計画を立案～実施。ATMの稼働率向上に寄与します。また、現地で保守作業を行うためのCE出勤回数を減らすことで、CO₂排出量の削減にも貢献します。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



気候変動に具体的な対策を

ATMサービス基盤 リモート運用サービスによるATM保守業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「ATMサービス基盤 リモート運用サービス」は、ATMの各種情報を分析し異常兆候などを検知し、遠隔からのリモート保守支援サービスを提供するソリューションです。

従来、ATMの稼働状態やユニット版数の確認、設定変更の適用、調査用ログの採取などはCEが現地に赴き保守作業を行っていましたが、当サービスを導入することで、富士通グループが運用するATMサービス基盤上からリモートによる詳細な情報を取得できます。

これにより、保守項目の改善などが図れ、より柔軟な保守計画の立案～実施が可能となり、ATMの稼働率向上に寄与します。加えて、CEの現地出動回数を減らすことができるため、CO₂排出量の削減にもつながります。

2024年1月更新：「リモート運用サービス」に以下の機能拡張を実施し、一部ユーザ向けに提供。

- ・リモートでATMを再起動しCEの出動回数を軽減する「リモートリブート機能」
- ・ATMの異常状況を、警備会社へ通知する機能「警備連携機能」
- ・リモートでATM操作画面の画面キャプチャを取得する機能「ATM画面キャプチャ機能」

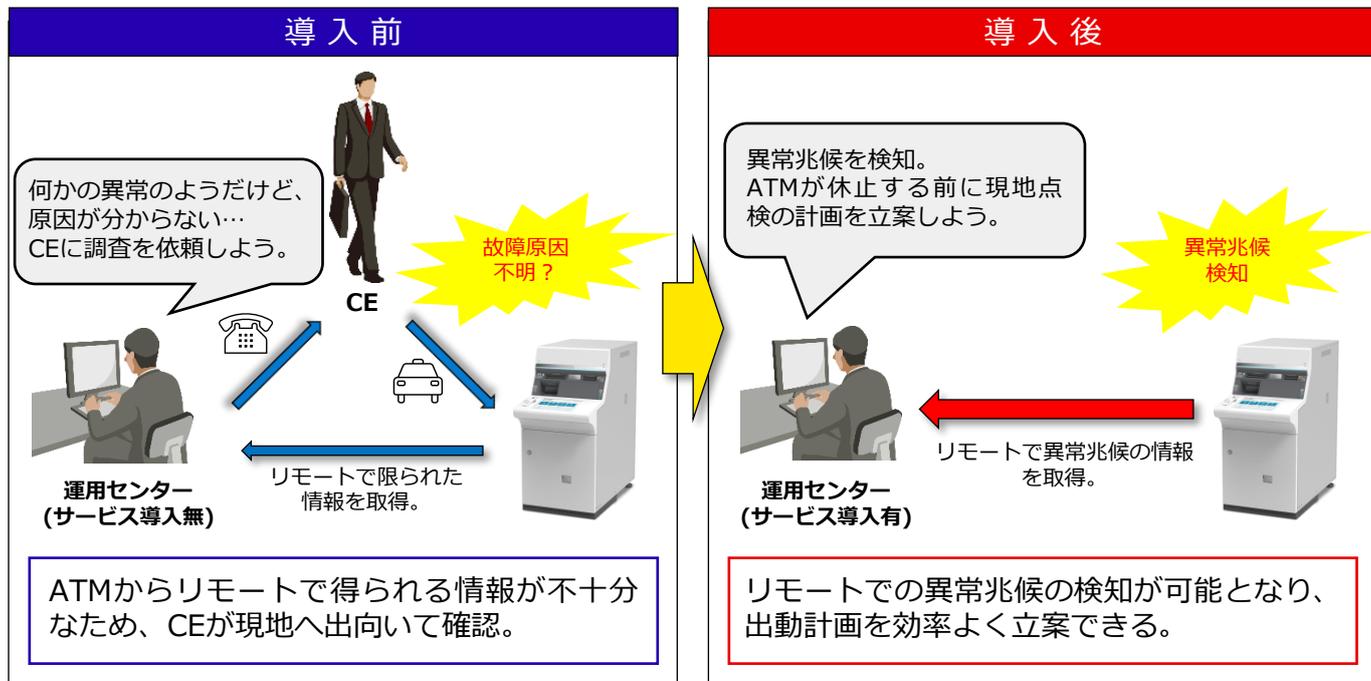
効果

- ・CO₂排出量の削減効果：約46% ※富士通フロンテック試算
 - ・CEの現地作業時間・移動距離の削減 ※CE出動1回当たりの作業時間：4時間、往復移動距離：75kmで試算
 - 【導入前】作業時間：約2,800時間/年
移動距離：約52,640km/年
 - 【導入後】作業時間：約1,400時間/年
移動距離：約26,320km/年
- ⇒結果、作業時間：約1,400時間/年、移動距離：約26,320kmの削減効果

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

ATMサービス基盤 リモート運用サービスの導入によって、何故、ATM現地保守の負担が軽減されるのか？

- ◎ ATMからリモートで情報を取得できるため、柔軟な保守計画の立案が可能となるだけでなく、異常確認のためにCEが現地に出動する回数を軽減できます。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社
ファイナンス&リテール事業本部 第一ソリューション事業部 第二システム部
Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>